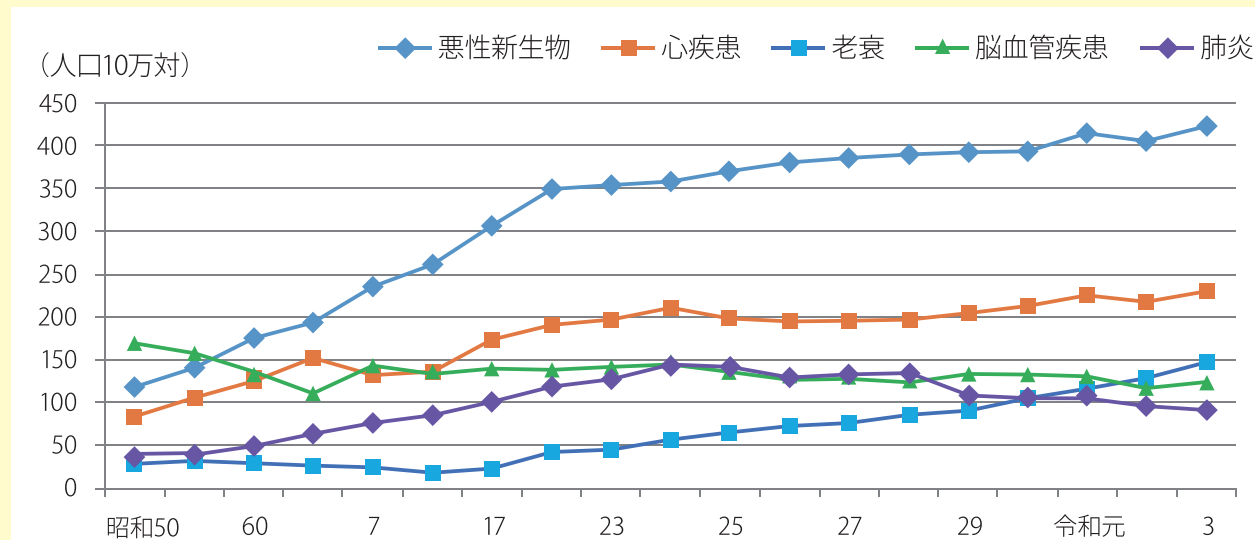


表1 主な死因別にみた死亡数・死亡率(人口10万対)

死 因	令和3年		令和2年		(令和3年-令和2年)	
	死亡数	率	死亡数	率	死亡数	率
死亡総数	18,785	1,544.8	17,905	1,453.1	880	91.7
悪性新生物	5,135	422.3	4,988	404.8	147	17.5
心疾患	2,810	231.1	2,714	220.3	96	10.8
老衰	1,801	148.1	1,606	130.3	195	17.8
脳血管疾患	1,496	123.0	1,455	118.1	41	4.9
肺炎	1,118	91.9	1,160	94.1	△42	△2.2
(参考) 新型コロナウイルス	32	2.6	7	0.6	25	2.0

図1 主な死因別にみた死亡率の年次推移



生活習慣病等による死亡率が高い要因としては、喫煙、運動不足、食習慣、飲酒などの生活習慣の積み重ねや、医療機関への受診の遅れ等が考えられることから、生活習慣の改善や、健(検)診の受診などによる生活習慣病の発症予防と重症化予防の取組が重要です。

このため県では、運動習慣改善の気運醸成を図るため、子どもの頃から健康的な生活習慣づくりに向け、家族ぐるみでも参加できる、「一歩

**生活習慣に着目した  
主な取組**

死因第1位の悪性新生物、第2位の心疾患、第4位の脳血管疾患のいわゆる「三大生活習慣病」による死亡数は、県全体の死亡数の半数を占めており、これらの疾病への対策が大きな課題となっています。

# 青森県の 病気の 傾向と対策



青森県健康福祉部健康福祉政策課 がん・生活習慣病対策課

**青森県の病気の傾向**

青森県の病気の傾向を探るため、「令和3年人口動態統計」の結果から、青森県民がどのような病気で亡くなっているのかをお伝えします。

令和3年の青森県の死亡数の合計は18,785人で、前年の17,905人より880人増加、人口10万対の死亡率は1,544.8で、前年の1,453.1を91.7ポイント上回っています。

死因別で見ると、死因第1位の悪性新生物(がん)による死亡数は5,135人であり、前年を147人上回っています。死亡数が多いがんは、多い順に肺がん994人、大腸がん768人、胃がん605人となっています。女性がんによる死亡数は乳がん214人、子宮がん78人、卵巣がん63人となっています。

死因第2位の心疾患による死亡数は2,810人であり、前年を96人上回っています。

心疾患のうち死亡数が最も多いのは心不全の1,248人で、心疾患による死亡数の44.4%です。

死因第3位の老衰による死亡数は1,801人であり、前年を195人上回っています。高齢化の進行に伴い老衰による死亡数は全国的に増加しています。

死因第4位の脳血管疾患による死亡数は1,496人であり、前年を41人上回っています。脳血管疾患のうち死亡数が最も多いのは脳梗塞の880人で、脳血管疾患による死亡数の58.8%です。

死因第5位の肺炎による死亡数は1,118人であり、前年を42人下回っています。新型コロナウイルスの感染が拡大した令和2年以降、手指消毒やマスク着用等の感染症対策の推進に伴い肺炎による死亡数は全国的に減少しています。

なお、新型コロナウイルスによる死亡数は32人となっています。